

慶應義塾教育研究発展事業

○慶應義塾大学グローバルフェローシップ（私費留学助成）事業

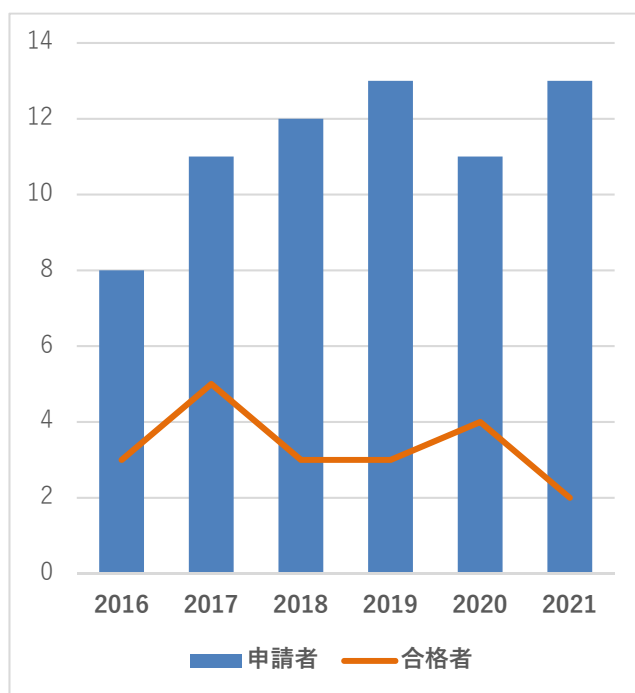
慶應義塾大学グローバルフェローシップ（私費留学助成）事業（以下、本事業）は2015年度から始まり、2020年度は、幅広い分野から採択された、総勢16名の学生が留学先で研究活動に励んでいます（表1）。

また、本奨学金は年々認知度が高まり申請者も増加傾向にあります（図1）。本事業のさらなる発展のための今後の課題として、受給者の留学ならではの経験や研究成果を、これから留学する学生、塾内の一貫教育校生徒にどのように共有していくかが挙げられます。さらに、留学を経験した学生が世界で活躍する姿を、学内はもとより学外にも広く伝え、慶應義塾の研究活動の大きな魅力の一つとして、本事業の発信に努めていきたいと考えています。

表1. 留学先（機関）一覧

	留学先（機関）
1	Martin Luther University of Halle-Wittenberg
2	King's College London
3	Illinois Institute of Technology
4	University of Bonn
5	Université Toulouse
6	University of California Los Angeles
7	University of York
8	Northwestern University
9	Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health
10	University of Colorado Boulder
11	Queen Mary University of London
12	University of WaterlooQueen Mary
13	RWTH Aachen University
14	The University of Texas, Austin
15	Johns Hopkins University
16	University of California, Berkeley

図1. グローバルフェローシップ申請者と合格者数の推移



2015～2020年度で総勢18名の学生が留学し、4名の学生が学位を取得しました（表2）。2020年度には本事業初となる博士号取得者が誕生し、また、修士号取得者の中には、その後も社会人博士として海外での研究活動を継続するなど、グローバルな活躍の幅を広げる人も出ています。現在留学中のGlobal Fellowの中には、新型コロナウイルスの感染拡大により留学の延長を余儀なくされた者もあり、今後も先行き不透明な状況が続きますが、2021年度には5名が博士号を取得する予定です。

表2. 学位取得一覧

採択年度	留学先		学位	
2016年度*	King's College London	英国	Doctor of Philosophy	English
2017年度	University of Sussex	英国	Master of Science	Development Economics
2017年度	University of Wisconsin-Madison	米国	Master of Science	Economics
2018年度*	Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health	米国	Master of Science	Public Health

参考URL：<https://www.ic.keio.ac.jp/doc/GlobalFellowship2021.pdf>
<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2021/2/18/27-78131/>

○東京オリンピック・パラリンピック関連事業

【2016年度】

● 「東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約書締結式」を実施

英国オリンピック委員会（BOA）、日本オリンピック委員会（JOC）、横浜市、川崎市および慶應義塾大学が2020年のオリンピック大会に向けての協力を約する契約書の締結式を行いました。BOA からセバスチャン・コー委員長、JOC から竹田恆和会長、林文子横浜市長、福田紀彦川崎市長および清家篤慶應義塾長（当時）が一堂に会し、20社を超えるマスコミの前で調印式を執り行い、東京オリンピックの成功に向けての協力への決意表明をしました（2017/3/21）。

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2017/3/23/27-20137/>

【2017年度】

● 広報計画（ブランディングシステム制作）

英国代表チーム事前キャンプの受け入れに向けた機運醸成のため、慶應義塾大学、横浜市、川崎市の3者が連携して統一的なプロモーションを展開できるよう、合同で使用するブランディングシステム（共同ロゴ等）を制作しました。2017年11月の提案競技に参加したデザイン会社の中から、慶應義塾創立150年記念のロゴデザインを担当した会社が委託先として選ばれ、次のロゴが完成しました。



横浜市・川崎市・慶應義塾大学共有で活用する GOGB ロゴ



ロゴを活用したキャンパス装飾（日吉キャンパス協生館内）

● 事業拠点の整備（協生館コミュニケーション・プラザ）

本事業の拠点として決定している日吉キャンパスの協生館2階のコミュニケーション・プラザの整備を進めました。本事業は慶應義塾の様々な教育・研究活動に広がる可能性があることから、その用途に応じて自由にデザインできるような設計としました。例えば、学生ボランティアチームの活動や、横浜市・川崎市・BOAとの連携の拠点として、また、慶應義塾の教育・研究・医療の研究成果を発信する場としての利用などを想定し、ガラス張りの開放的な空間とし、BOA、BPAの競技者、スタッフ、学生、教職員が集う場を提供します。

【2018年度】

● 「東京2020英国パラリンピック委員会との覚書締結式」を実施

東京2020パラリンピックにおける英国パラリンピック代表チームの事前キャンプ受け入れについて、英国パラリンピック委員会（BPA）と覚書を締結しました。BPAと慶應義塾大学、横浜市、川崎市の4者は、事前キャンプのみならず、文化・学術面での交流や、地域社会との交流も見据え、協力していく予定です。日吉キャンパスの会場には、多くの来賓をはじめ、英国視覚障害者柔道の選手たちも参加し、選手と学生が歓談する場面も見られました（2018/5/24）。

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2018/5/28/27-44206/>

● 広報活動

慶應義塾大学と横浜市および川崎市は、3者共同で英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB2020」（<https://gogb2020.jp/> ※）を立ち上げました。（※GO GB2020サイトは2022年2月28日に閉鎖。）日・英語2か国語で対応しており、ホストとしての3者の魅力を国内外にアピールすると共に、英国代表チームが事前キャンプを行う施設や競技を紹介するサイトとなっています。大会終了まで、各種イベント情報や英国代表チーム（Team GB、ParalympicsGB）関連情報など、英国代表チームの応援に役立つ

情報を発信することを目指しています。

● 英国オリンピック委員会 Team GB 事前キャンプ・セミナーシリーズ開催

英国オリンピック委員会（BOA）と慶應義塾大学は、日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホールにて、「最高のパフォーマンスを保つには」と題するセミナーを共催しました。講演のあと、ボート競技のパフォーマンスディレクターであるブレンダン・パーセル氏を含む登壇した3名の講師への質疑応答が行われ、約140名の参加者から、学生、教員、体育会関係者、塾員らと、活発な意見が交わされました。本セミナーは2020年に向けて横浜市および川崎市と持ち回りで計6回実施するセミナーシリーズの1回目です（2018/10/19）。

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2018/10/24/27-48991/>



BOA との共催セミナーの様子

【2019年度】

● BOA およびBPA 競技チームのテストキャンプ受け入れ

2019年度は、BOA からは陸上競技、アーティスティック・スイミング、マラソン・スイミング、スイミング、器械体操、トランポリン、柔道、テコンドー等の競技チームによるテストキャンプや視察、BPA からは柔道、端艇、アーチェリーの競技チームによるテストキャンプや視察を受け入れました。チームによっては複数回にわたって来日し、周到な準備を行うチームもありました。また、BOA、BPA とともに、視察と事前打合せのためにスタッフが複数回訪れ、事前キャンプの運営に関する検討、調整が重ねられました。この機会に体育会部員および KEIO 2020 project メンバーを中心とする学生達がテストキャンプの支援を行い、BOA、BPA の選手達と交流しました。



陸上競技チームと塾生との交流



器械体操チームの蝮谷体育館での練習風景

● 広報活動

2018年度に慶應義塾と横浜市および川崎市の3者で立ち上げた英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB 2020」の運用を継続して行いました。2019年度は、テストキャンプの実施報告や東京2020オリンピックに関係する人々のコラム等を日英語で更新したほか、慶應義塾のウェブサイト中に設けられたオリンピックページをトピックごとに見やすくする変更を行いました。

また、テストキャンプ受け入れ時に、チームの歓迎および海外の報道機関による報道や選手達が発信するSNS等で慶應義塾をキャンプ地としていることが分かるように、日吉キャンパス各所に慶應義塾およびGOGBのロゴを活用した装飾を行いました。2019年7月のBOAテストキャンプ時には、英国メディアであるBBC, Sky Sports, Daily Telegraph 紙が滞在チームの取材を行い、その際に器械体操部員が Sky Sports による取材を受けました。



柔道場内の装飾

【2020年度】

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期にともない、日吉キャンパスで予定されていた英国代表チームによる事前キャンプも2021年夏に延期され、2020年のキャンプの実施やイベントの開催などは見送りとなりました。

● 広報活動

2021年夏の本大会開催を前提として、慶應義塾と横浜市および川崎市の3者で2018年度に立ち上げた英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB 2020」の運用を継続して行いました。2020年度は英国オリンピック委員会（BOA）および英国パラリンピック委員会（BPA）による大会延期に関するメッセージ等を中心に情報を発信しました。本サイトは2019年1月～2020年10月までで5万件近いアクセス数を記録し、うち日本からのセッションは87.4%、海外からのセッションは12.6%を占めました。

以上